

源流のむらづくりを目指して

川上村農業委員会

1. 川上村の概要

川上村の面積は約 270 平方キロメートル。そのほとんどが山林で日本三大人工美林の一つに数えられる吉野杉の美林があります。吉野杉を育てる吉野林業は室町時代に日本で初めて、この川上村で始まりました。そのため農業は副業的に行われてきたように思われます。

現在、945 世帯（1,973 人）のうち 53 世帯（113 人）が農業に携わっていますが、高齢化と過疎化が問題となっており、高齢化率 48.5 % という奈良県で一番の高齢化で、耕作面積・農業者数も年々減少傾向にあります。

2. 農業委員会の取り組み

川上村の農業といっても、そのすべては自家栽培・自家消費の兼業農家であり、人口の減少に反して遊休農地は増える一方です。そのため、農業委員会に「遊休農地対策委員会」を設置し、農地活用方法を模索しています。現在まででは、若松・榎・しきみ・榊等の植栽や、こんにゃく芋、各種薬草の栽培を行い、遊休農地の活用と収益を目指した取組も積極的に行ってきましたが、先に述べたように、高齢化により現在は栽培活動も、ままならない状況です。

また、有害鳥獣による農地への被害も増え、村猟友会による有害鳥獣駆除だけでは対応もできないことから、自衛策として、平成 9 年から畑の周囲に設置する防除柵に対して「有害鳥獣防除施設補助金」を村単独補助で対応しています。

農林産物の販売については、平成 12 年より毎週土・日・祝日（3 月末～11 月末日）に「ふるさと市場」を開催中。毎回 7 件ほどが集まる小規模な「市」だが、活気は十分、店頭には手づくりこんにゃくや季節野菜も並びます。紅葉や新緑の時期には多くの観光客で賑わっています。

高齢者の方も健康なお年寄りが多いので、そういう方たちの知恵やお力を借りながら、農業委員会としての時代に即した活動を進めていきたいと思えます。

